

冬期テキスト

必修編

国語

中学 **3** 年



◆もくじ◆ 国語3年

講座名	ページ	学習日	確認
第1講座 論説文(1)―指示語・接続語	2	／	
第2講座 論説文(2)―構成・要旨	6	／	
第3講座 小説(1)―心情・人物像	10	／	
第4講座 小説(2)―主題	14	／	
第5講座 随筆―表現・主題	18	／	
第6講座 詩歌―詩・短歌・俳句の鑑賞	22	／	
第7講座 古典(1)―古文の読解	26	／	
第8講座 古典(2)―漢文・漢詩の読解	30	／	
補講 コミュニケーション・表現	34	／	
入試対策問題	43	／	

講座名	ページ	学習日	確認
言語① 部首・画数・筆順・書写	35	／	
言語② 同音異字・同訓異字・同音異義語	36	／	
言語③ 熟語の構成・三字熟語・四字熟語	37	／	
言語④ 類義語・対義語	38	／	
言語⑤ 慣用句・ことわざ・故事成語	39	／	
言語⑥ 敬語	40	／	
言語⑦ 紛らわしい語の識別(品詞)	41	／	
言語⑧ 紛らわしい語の識別(意味・用法)	42	／	

第7 講座

古典(1) — 古文の読解

学習日 月 日

確認問題

● 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。〔群馬改〕
人とはまじはらんには、何程親しく心やすき間なりとも、
接するような時には 気安

見舞の時、かりそめにもぶあいさつの顔あるまじ。しかれ
人が訪問した時 わずかばかりでも無愛想の顔をしてはならない

ども、なべて人、内用の時、客来あれば、ぶあいさつの顔
一般に 家の用事がある時

つきをし、また常には、「^{*}だうしめされい」、「かうしめさ

れい」などいふ友達をも、いんぎんにことばをつかひ、相
丁寧

手を迷惑さする人多し。これ法外の事なり。ぶあいさつの
② ほんともないことである

面つきして、人にうとまれむ は、内用を有様にいひて、
嫌われる

客人を帰したるが、はるばるましならん。

(注) 「だうしめされい」「かうしめされい」 親しい人との会話
で用いられた言葉。「どうしたんだい」「こうしたらどう
だい」の意。
〔仮名草子集〕より

問1 現代語訳 — 線①「間なりとも」の意味として適
切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 時間があるから イ 間柄であっても
ウ 間柄であるから エ 時間であっても

問2 内容理解 — 線②「これ」が指す内容を、次のよ
うにまとめました。 に当てはまる言葉を、古文中
から二字で抜き出しなさい。

・家の用事があるときに、来客があれば無愛想な顔をし、
またやって来たのが親しい てあつても、丁寧な
言葉を使って戸惑わせてしまうこと。

問3 助詞の補充 に当てはまる言葉を次から一つ
選び、記号で答えなさい。

ア より イ から
ウ まて エ にて

問4 主題 この文章で筆者が述べている内容として適切
なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 用事のあるときに来客があつても、その来客が親しい
人の場合には用事を後回しにして対応したほうがよい。
イ 用事のあるときに来客があつても、用事を後回しにし
て、普段以上に丁寧な言葉遣いで対応したほうがよい。

ウ 用事のあるときに来客があつても、機嫌よく迎え入
れ、ぜひゆっくりしてほしと伝えたほうがよい。
エ 用事のあるときに来客があつても、不機嫌な顔をせ
ずに、理由をはっきり言つて帰つてもらつたほうがよ
い。

要点のまとめ

古文の読解

1 主語や助詞などの省略に注意する。

・古文では、主語や助詞が省略され
ることが多いため、文脈を確認し、
補いながら読み進める。

〔例〕今は昔、竹取の翁といふもの
ありけり。(竹取の翁は) 野山
にまじりて竹を取りつつ、……

2 会話をつかむ。

・まず会話文の終わりにつく「と」
「とて」などに注目して最後をつ
かみ、「……いはく」「……申すや
う」などに注目して最初をつかむ。

3 指示語・修飾語に注意する。

・現代文と同様に、指示語が指す内
容、修飾語と被修飾語の関係を把
握しながら読む。

4 文章の内容をつかむ。

・どのような出来事、どのような人
物について書かれているか。
・筆者がいたいことは何か。
・どのような教訓があるか。
・話のおもしろさはどこにあるか。

基本問題

① 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

〔島根改〕

* もろこし人の語りしに、ある人ともだちかたらひて、山のふもとを通りしに、この山に虎ありて、人を食らふ。この虎をころしたるものあらば、十万貫^{*}をたまふべしと、高札^{たかふだ}たちたるを見て、おほひによろこび、うてまくりなどし、そのままかけあがらんとするを、かたへの人ひきとどめ、いのちは惜しからずやといへば、たからだにもちたれば、いのちは何か惜しからむとこたへしとかりき。② おろかなる人のこころざし、まことにおかしきことなり。

〔たはれ草〕より〕

〔注〕 もろこし人＝中国の人。 貫＝錢貨を数える単位。 高札＝立て札。

問1 内容理解 — 線①「そのままかけあがらんとする」とありますが、「ある人」がこのようにしたのはなぜですか。簡潔に書きなさい。

問2 主題 — 線②「おろかなる人の……おかしきことなり。」とありますが、

どのような点を指して「おろか」だといっているのですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大金を手に入れる機会があったことに気づかず、みすみすそれを逃してしまふ点。

イ 身勝手な欲深く、大金を手に入れるためには、他人のいのちを平気で奪おうとする点。

ウ 立て札の情報が本当に正しいのか確かめることをせず、うのみにしてだまされてしまふ点。

エ いのちを大切にすることよりも、大金を手に入れることのほうに価値をおいている点。

② 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

ある所に女房^{にようぼう}あまた居て、箏^{そう}ひくに、琴柱^{ことしら}のはしりて失せたるを、さるべき男もなければ、宿直^{しゆくちく}人の見ゆるをよびて、「かの前栽^{せんざい}の中に、楓^{かへ}の木、二またに、これほど、しかしか切りて来」とこまかに教へてやりつ。

* 「はかばかしきことあらじ」といふほどに、切りて、もて来にけり。簾^{すだ}のもとによりて、「このかり琴柱、参らせ候はむ」といひ出でたるに、思はずにあさましくて、「こまごまと教へつる、いかにをこがましく思ひつらむ」と恥ぢあへりけり。

〔注〕 箏＝中国伝来の琴。 琴柱＝琴の胴の上に立てて、絃の音階を調節するもの。

宿直人＝貴人の邸宅で、夜に警護をする人。 前栽＝庭の草や木。

はかばかしきことあらじ＝たいしたことはできないだろう。

あさましくて＝びっくりして。 をこがましく＝馬鹿馬鹿しいと。

問1 内容理解 — 線①「宿直人の見ゆるをよびて」とありますが、女房たちは何をさせるために宿直の人を呼び寄せたのですか。簡潔に書きなさい。

問2 主題 — 線②「いひ出でたる」とありますが、その主題に当たる人物を表す言葉を、古文中から三字で抜き出しなさい。

問3 内容理解 — 線③「恥ぢあへりけり」とありますが、女房たちが恥ぢ

かしく思った理由として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア なくしたと思った琴柱を宿直の人が自分たちのすぐ近くで見つけたから。

イ 宿直の人をあなどって、琴柱について詳しく説明してしまったから。

ウ 琴柱をなくするような箏の弾き方は、とても下品であると気づいたから。

エ 身分が低い者に対しても、丁寧な心配りをしたと褒められたから。

演習問題

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〈宮城改〉

『徒然草』の作者は次のように述べている。

① ② ③
 * ① 手のわるき人の、はばかりず文書きちらすはよし。見ぐるしとて、人に
 * ② 書かするはうるさし。
 * ③

〔「徒然草」第三十五段より〕

〔徒然草〕第三十五段より

しかし、実際には、『枕草子』^{まのそうし}に記されているように、藤原信経の^{ふじわらののぶつね}ような人もいたようだ。

（藤原信経は）＊まな真名も仮名もあしう書くを、人のわらひなどすれば、隠してなんある。

〔枕草子〕 第百三段より〕

〔枕草子〕 第百三段より

(注) 手_二字。はばかりず_二遠慮せず。文_二手紙。真名_二漢字。

問1 古語の意味——線①「わろき」と似た意味で用いられている言葉を

『枕草子』の古文中から抜き出しなさい。

問2 古語の意味——線②「うるさし」の意味として適切なものを次から

つ選び、記号で答えなさい。

ア 細かい心遣いで、大したものだ。

イ
わぎとらしくて、
嫌味だ。

ウ 手紙の作法として、優れている。

工
煩わしくて、嫌だ。

問3 内容理解 『枕草子』の古文中的藤原信経に、もし、『徒然草』の作者が

助言するとしたら、どのように言うかと想像できますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア
字が下手であれば、
仮名だけで書いたほうがよい。

イ 下手な字は人に笑われるので、隠したほうがよい。

ウ 読みやすいほうがよいので、人に書いてもらったほうがよい。

工たとえ下手でも隠さずに、勇気をもつて書いたほうがよい。

2 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてするなり。それの年のしは
すの二十日あまり一日の日の戌の時に門出す。そのよし、いささかにもものに書
きつく。

〔*〕
①にき
②にき
③にき

「土佐日記」より

(注) すなる_ニするといふ。 戌の時_ニ午後八時頃。

問1 仮名遣い——線①「日記といふものを」の中から歴史的仮名遣いを含む

む文節を抜き出し、現代仮名遣いに直しなさい。

問2 古典常識——線②「しはす」について、(1)漢字に直して書きなさい。

(2) その意味を簡潔に書きなさい。

問3 内容理解 — 線③ 「そのよし」について、「よし」は「いきさつ・事情」

まる言葉を書きなさい。

のこきり

1 論説文(1)―指示語・接続語

◆確認問題◆

2 ページ

- 問 1 例何かを感じてさつと動く(こと)。
問 2 ウ 問 3 恒常的にや

解説

問 1 指示語の指す内容は、指示語よりも前にあることが多い。この文章では指示語の前に一文しかないとをまず押さえる。設問文に「……こと。」に続くように、とあるので、文を少し変える必要がある。――線①に答えを当てはめてみて確認する。指示語を含む文の文末が「……できない。」となっているので、答えが「……動ける」にはならないことに注意する。

- 問 2 A・B の前後の内容を確認する。

- ・ A の前：「挨拶が習慣として身につけている人」の話。
- ・ A の後：「挨拶を習慣にしていない人」の話。
- ・ A の前後で対照的な話題に変わっている。|| 転換(対比)
- ・ B の前：「……謝るタイミングを失ってしまう。」
- ・ B の後：「……センサーさえも働かないようになってしまう。」
- ・ B の前の内容に、B の後の内容を付け加えている。|| 並立・累加
- ・ A は「しかし」を当てはめられるが、B に「たとえば」は当てはまらない。

- 問 3 ―線②「それ」が指す内容は、「それ」より前の具体例の部分である。いまは生活スタイルが変わり、正座をする機会が減ったので、正座が苦手になった」という内容が「からだの反応」である。これを端的にまとめたのが、「それ」のすぐ後の一文である。指示語が後の内容を指していると捉えることもできる。

◆基本問題◆

3 ページ

- 問 1 高度な知的文明
問 2 イ
問 3 エ
問 4 例光速の一〇分の一程度の速さに加速した宇宙船。

別解 光速の一〇分の一程度の速さに宇宙船を加速すること。

解説

問 1 指示語は、文章を書くときに同じ言葉を何度も使うことを避けるために用いることを押さえて考える。――線①「その文明」とあるので、まず「文明」という言葉を手がかりに探していく。指示語の前を遡っていくと、「高度な知的文明」とある。

- 問 2 ―線②「ところが」、――線③「しかし」は、どちらも逆接の接続語である。前て述べたこととはくい違う内容や逆の内容を後て述べる場合に用いる。他にも「だが」「けれども」などがある。

- 問 3 ―線④の前は、光速で五〇〇〇年かかる宇宙旅行が続けられるはずがない、という内容。後は、光速近くて飛ぶ宇宙船を開発することすらできずもない、という内容。前の内容に、後の内容を付け加えていることがわかる。このような接続語の働きをする接続語は、エ「そのうえ」である。似た働きをする接続語には、他にも「そして」「しかも」「また」などがある。

- 問 4 ―線⑤のすぐ後に「五万年もかかる」とある。どうした場合に五万年かかるのかを考えると、光速の一〇分の一の速度で移動した場合である。文章中の言葉を使えば、宇宙船を光速の一〇分の一程度の速度まで加速することができた場合、ということになる。

◆確認問題◆

26ページ

- 問1 イ 問2 友達 問3 ア 問4 エ

解説

問1 直前に「親しく心やすき」とあることから、親しく気安い間柄のことが書かれているとわかる。「……なりとも」は、「……であつたとしても」。

問2 指示語が指す内容は、直前にあることが多い。まとめられている文を読み、が古文のどの部分に対応しているかを捉える。

問3 「無愛想な顔をして人に嫌われる」と「用事があるがままに伝えて帰ってもらう」が比較して書かれている。筆者がどちらのほうがよいといっているかを理解する。

問4 最後の一文が、この古文全体のまとめとなっていることを押さえる。「無愛想な顔をして人に嫌われるよりは、用事があるがままに伝えて帰つてもらったほうがましである」と筆者はいっている。アは「親しい人の場合には用事を後回しにして対応したほうがよい」が、×。イは「普段以上に丁寧な言葉遣いで対応したほうがよい」が、×。ウは「ぜひゆくりしていい」といってほしいと伝えたほうがよい」が、×。

現代語訳

人と接するようなどきには、どれほど親しく気安い間柄であっても、人が訪問したとき、わずかばかりでも無愛想の顔をしてはならない。それなのに、一般に人は、家の用事があるとき、訪問客があると、無愛想の顔つきをし、また普段には、「どうしたんだい」、「こうしたらどうだい」などと言う友達にも、丁寧に言葉を使い、相手を戸惑わせるような人が多い。これはとんでもないことである。無愛想の顔つきをして、人に嫌われるよりは、用事をありのままに言つて、客人を帰したほうが、はるかにましだろう。

◆基本問題◆

27ページ

- ① 問1 例虎を殺して、まっさきに十萬貫を手に入れようと思ったから。
問2 エ

解説

問1 「そのままかけあがらんとする」の前の部分で、立て札に書かれていることを読んでいることから、そこに理由があるとわかる。

問2 直前に「ある人」と「かたへの人」の会話があることを押さえ、そこから捉える。どれが「ある人」の言葉であるかを読み取り、選択肢と比較する。

現代語訳

中国の人が語ったことに、ある人が友達と話しながら、山のふもとを通つたとき、「この山には虎がいて、人を食う。この虎を殺した者があれば、十萬貫を与える」と、立て札が立っているのを見て、とても喜び、腕まくりをして、そのまま(山へ)駆け上がりようとするのを、そばの人が引きとどめて、「命が惜しくないのか」と言うと、「大金を手に入れられるのなら、命が惜しいことなどあるうか」と答えたと言つた。愚かな人の考えは、本当におかしなものである。

- ② 問1 例 例なくなった琴柱の代わりに木を切つてこさせるため。
問2 宿直人 問3 イ

解説

問1 「琴柱のはしりて失せたるを」という部分と、宿直の人に琴柱のことを細かく説明している会話文から読み取る。

問2 飯の琴柱を女房たちに持つてくるよう言われたのは「宿直人」である。

問3 女房たちは宿直の人が琴柱のことを知らないと思ひ込み、事細かに説明した。しかし琴柱が何を知っていた宿直の人にすればさぞかし馬鹿馬鹿しいと思つただろうと、恥ずかしく思つたのである。